

やっぺす 起業家支援事業 報告書

石巻復興支援ネットワーク創業支援事業
2012年から現在までのあゆみ



目 次

はじめに ～個の育成からコミュニティの創出へ～	1
ご挨拶	2

起業家支援のあゆみ

4つの事例

阿部 民子 「たみこの海バック」(南三陸)	6
高橋 正祥 「宮城ダイビングサービス High bridge」(女川)	8
三浦 有貴 「THE DAY」(石巻)	10
神澤 祐輔 「NPO 法人かぎかつこ PROJECT」(石巻)	12

やっぺす起業ファンド

成澤 英子 「ちょこっと」(南三陸)	14
三浦さき子 「農漁家レストラン慶明丸」(南三陸)	15
門馬 優 「特定非営利活動法人 TEDIC」(石巻)	16
古山 隆幸 「一般社団法人 イトナブ石巻」(石巻)	17
村島 弘子 「特定非営利活動法人 移動支援 Rera」(石巻)	18
田中鉄太郎 「結日丸／FUNADE studio」(石巻)	19
小野 美紀 「こゆゆ」(仙台)	20

宮城県震災復興起業支援業務

渡邊 享子 「合同会社 巻組」(石巻)	21
亀山 貴一 「一般社団法人はまのね／café はまぐり堂」(石巻)	22
三浦未恵子 「あろまおいるせらぴー日だまり」(石巻)	23
小尾 勝吉 「愛さんさん宅食株式会社」(石巻)	24
徳水 利枝 「一般社団法人 雄勝花物語」(石巻)	25
木村 優佑 「ガル屋 beer」(女川)	26
山田 隆大 「りぼん」(女川)	27
杉浦 恵一 「co-ba KESENNUMA」(気仙沼)	28

宮城県地域起業・新事業活動拠点運営業務

説田 幸子 「Chez Setta」(石巻)	29
木村恵美子 「一般社団法人 地域障害者雇用促進協会 N さぼーと・みやぎ」(石巻)	30
鹿島 美織 「いしのみ★キッチン」(石巻)	31
阿部 拓哉 「Hair salon G-cloud」(大崎市)	32

講師コメント	33
起業家の分析	34
当団体が 2012 年以降に実施した創業支援概要	35

個の育成からコミュニティの創出へ

～復興フェーズと共に移り変わる創業支援～

石巻復興支援ネットワークでは、2012年度より、復興に向けて新たに事業を起こす個人や企業に対して、国や宮城県の施策を活用しながら、創業支援に取り組んできました。

その一つが2014年7月にスタートしたコワーキングスペース事業であり、震災後起業された皆さんや、これからする予定の人たちが集うことで、互いに学び合い、高め合い、そこから魅力的な仕事づくりにつながるコラボレーションがたくさん生まれる場づくりを目指しています。

また、石巻を訪れる方々にもご利用いただき、地域を超えたコラボレーションが生まれることも期待しています。

本スペースでは現在、創業・経営の基本セミナーの開催や経営に関する相談対応業務、地域において起業意欲の醸成と起業仲間ネットワークの形成を図るための起業家交流サロンなどを定期的に実施し、石巻市の産業発展の基盤づくりに注力しています。また、石巻市の起業家・経営者らがどのような学びを求めているのかに焦点を当て、web制作をはじめ、地方では中々得られない学びを提供するオリジナルセミナーも実施しています。

これまで17件の新規創業を支援したほか、特定創業支援事業に位置付けられる「創業・経営の基本セミナー」において証明書発行可能者（注）を91名輩出しています。

東日本大震災から6年が経過し、こと産業面におきましても様々な業種において多くの方々が立ち上がりました。私たちは、産業面における石巻市の現在の課題は「継続」に有りと考えています。この後に紹介されている実際に創業された皆さんも継続が現在の課題であり永年の目標ともなっております。いかに立ち上がった人々が事業を継続できるのか、組織を継続できるのか。今後弊社団体では事業継続のフォローにフォーカスを当て、「つながり人口の増大とつながり醸成」を軸に創業支援事業を推進して参ります。

（注）石巻市の創業支援事業計画に位置付けられた特定創業支援を受けたことにより発行される証明書。創業時における様々なメリットが受けられる。

※尚、本冊子ではこれまでに石巻復興支援ネットワークが起業支援をした89件の団体の中から、モデルケースとして23の団体をご紹介します。

Coworking!@Ishinomaki（2017年4月に新拠点に移転しました！）

旧住所

〒986-0825

宮城県石巻市穀町 12-25

まもり屋本店ビル 1 階



新住所

〒986-0825

宮城県石巻市穀町 12-18

石巻駅前ビル 4 階



発行にあたり

石巻復興支援ネットワーク 代表理事
兼子 佳恵

2011年3月11日。

東日本大震災を経験し、「被災地の地域再生には住民が主体的に関わるべきだ」と感じ、私自身も「内閣府・社会雇用創造事業の復興支援枠」に挑戦し、この法人を立ち上げました。

そして、新しい地域の再生には元に戻すだけの「復興支援」だけではなく、震災を機に社会課題を自らの手で解決する仕組みや共に学ぶ場所をつくるべきだと痛感し、地域再生の中心を担うビジネスの創出と人材育成に力を入れてまいりました。

団体の創業支援事業としては、2012年にNPO法人 edge とコンソーシアムを構築し、「内閣府地域社会雇用創造事業・やっぺす！起業支援ファンド」「やっぺす！人材育成スクール」を実施。2013年は宮城県より「宮城県震災復興起業支援業務」を受託・実施、そして2014年より「宮城県地域起業・新事業活動拠点運営業務」を宮城県より受託し、創業や事業の発展を目指す人の拠点「Coworking! @ Ishinomaki」を設置し、現在まで創業支援事業を継続しております。

この他にも2013年には日本財団（公社）の助成により「石巻復興起業家ゼミ運営事業」を実施。また、2013年以降は日本ロレアル（株）との共催で女性に特化した人材育成スクール「Eyes for Future by ランコム」を開講し、起業家支援を展開しております。

単年度での成果は難しくとも、私たちが多くの方々の英知を起業家や地域と繋ぐことで、多様なプラスの連鎖が生まれていると感じています。第一に、住民が主体となって地域の課題に積極的に取り組もうという意識が醸成されたこと。第二に、確固とした信念やノウハウを持って復興に取り組む起業家がこの石巻に集い、また応援者が増えたこと。第三に、多ジャンルの起業家の連携が進んだこと。業種を超えて人と人がつながり、それぞれの事業が前に進む。更にそれらがつながり続けていることこそ、大きな成果だと感じています。規模は小さくとも地域に根づいて地道に活動する多くの事業者が、いずれ必ず大きな実を結ぶことになると思います。

東日本大震災で甚大なダメージを受けた石巻は、誤解を恐れずに言うならば「社会課題の解決に向けた先進地」とも言えると思います。少子高齢化・都市部への人口流出・地域格差といった問題が山積みになっている現代の日本において、地域再生の一つのカギとなるのが民間・企業・行政が互いにもつ強みを生かしたアライアンスの構築であり、それは急務の課題と考えます。

この事業がその一助を担えるようにこれからも精進してまいりたいと思いますので、引き続きご指導、ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。

石巻市の震災復興と 創業支援について

石巻市市長
亀山 紘



皆様には、日頃より本市行政の推進に温かい御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市は、東日本大震災からの復興に向け、国や県等関係機関の協力のもと、様々な事業を進めているところであります。本年度は、震災からの復興の道標として策定した「石巻市震災復興基本計画」の「再生期」の3年目を迎えたところですが、人口の流出、事業所数、従業者数は未だ震災前の水準には戻っておらず、新たな産業の創出に向けた取組が必要となっております。そのため、本市では産学官金の連携体制を構築し、地域における創業希望者や創業間もない方々への支援に努めており、既存企業の復旧・復興への取組の支援や企業誘致のみならず、地域における開業率の向上による本市の活性化及び新たな雇用の創出に繋げていきたいと考えております。

これまでの創業の促進を主眼としておりましたが、今後は創業した方々の事業継続に向けたフォローアップが必要となってきております。

こうした中、特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク様には、市民活動と密着した復興支援活動及び創業支援事業に御尽力いただき、大変心強く感じております。

本市におきましても、创业者が「夢・想い」を実現し、豊かな市民生活を送ることができるよう、復興支援団体との連携をさらに強化し、地域経済の活性化に向け、鋭意取組んで参りたいと存じます。

最大の被災都市から世界の復興モデル都市石巻を目指して、まだまだ課題は山積しておりますが、皆様からの知恵とお力をお借りして少しずつ前進していきたいと考えております。今後ますますのお力添えをいただくとともに、皆様の益々の御発展と、御活躍を心より祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

創業支援事業と震災からの復興

宮城県経済商工観光部
中小企業支援室

東日本大震災から7年目を迎えた本年度は、「宮城県震災復興計画」に定める「再生期」の最終年度に当たります。平成30年度からの「発展期」に向けて、県では関係機関の協力をいただきながら、震災からの復旧・復興と地域経済の活性化に向けた施策の推進に一丸となって取り組んでいるところです。

こうした中、特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク様には、平成26年度から継続して、県の「地域起業・新事業創出活動拠点」の運営を受託していただいております。

この事業は、被災地における雇用の確保及び本県経済の成長を図るため、沿岸被災地や人口減少地域において、県内外の起業経験者や起業を志す方々が情報・意見の交換を行うことのできる活動拠点「コワーキングスペース」を設置し、新たなビジネスを生み出していく環境づくりを目的として創設したものです。

また、平成26年1月に施行された「産業競争力強化法」の趣旨を踏まえ、地域において民間事業者と市町村が連携した創業支援体制を構築することも目的の一つとしております。

石巻復興支援ネットワーク様には、コワーキングスペースの開設以降、活動拠点の運営はもとより創業相談やセミナー、交流事業等を展開いただき、実際に創業を実現させるなど、石巻地域の創業支援の拠点として育てていただいております。その御尽力に対しまして、心より感謝申し上げます。

県では今年度、本事業をはじめ、被災沿岸地域及び内陸地域の創業・第二創業を支援する「スタートアップ加速化支援事業」、創業支援の市町村ネットワーク構築を図る「地域創業推進事業」など創業支援に重点を置いた取組を展開していくこととしており、今後とも関係機関と連携し、県内における創業支援体制の構築を推進してまいります。

復旧・復興への道のりはまだ続きますが、石巻復興支援ネットワーク様には、魅力的な仕事と人材の育成に向けて、これまでに培った県内外のネットワークと地域のコミュニケーションを一層深め、地域の創業支援体制のモデルを確立されますことを御期待申し上げます。

起業家・事業紹介

やっぺす創業支援事業において創業された方々をご紹介します！



石巻復興支援ネットワーク事務局次長
(コワーキングスペース事業マネージャー)
兼子 政慶

4つの事例

p 6 ~ 13

やっぺす起業ファンド

p 14 ~ 20

宮城県震災復興起業支援業務

p 21 ~ 28

宮城県地域起業・ 新事業活動拠点運営業務

p 29 ~ 32

南三陸の海産物の通販と 六次産業化で、 地元に雇用を創出



阿部 民子（あべ たみこ）

山形県生まれ。南三陸町戸倉に嫁ぎ、3人の子を育てながら28年間、カキ・ワカメ・ホタテなどの養殖業に従事。震災で自宅や漁業設備を失い、一時は海から離れたかったが、地域の再生を期して起業を決意。2012年10月から地元海産物のセレクトショップを通販で始めた。養殖したワカメをオリジナル商品化し、スーパーへの卸しを行うなど六次産業化を図っている。

厳選した地元の水産加工品を通販

津波で養殖いかだや漁具も流失、また震災後数年は漁協の取り決めで自由に養殖業が営めない状況だった。「陸でできることを始めなくちゃ」と考え始めていた頃、南三陸にきたボランティアから“地元のものを買うにはどこに行けばいいか、何がおすすめか”しばしば尋ねられる。長く養殖業に携わった阿部さんは海産物の目利き。地元の複数の水産加工業者と提携し、イチオシ海産物を取り揃えて通販しようと思い立った。こうして生まれたのが「たみこの海バック」(1箱3,500円〜)で、味の良さ、鮮度の高さが評判になった。



ファンドを活用し、ネット販売をスタート



阿部さんと同様、戸倉地区の多くの人が生活再建の道を探していた。「販売力をつけ、雇用を生み出せる事業にしたい」と、2012年にやっべす起業支援ファンドに応募。これを機にパソコンが得意な若手をパートタイマーとして雇用し、ホームページやSNSによる情報発信も始めた。また単に商品を届けるのではなくニュースレターを添え、復興の様子や旬の魚介、料理レシピなどを書き込んでいる。「(研修会で)オリジナル性を出したほうがいいってアドバイスを受けたけれど、何をしたらいいのかわからなくて。自分が見たことや思ったことをつぶつぶって」和謙遜気味に言うが、リピーターが増えた一因だ。

生産者の技術と 主婦の知恵を生かした商品開発



通販と並行し、海藻類の卸販売とオリジナル商品の開発も始めた。「袋詰めにする作業だけでも雇用が生まれる」と、地域の生産者が手がける良質のヒジキ・とろろ昆布などをバック詰めし、県内外のスーパーに卸している。また自分たちで育てたワカメに独自の加工を施し、商品化に成功。その一つ「たみこの楽ちんわかめ」は塩分を薄くして作った塩蔵ワカメを小さくカットしたもので、軽く水にさらすだけで食べられる。この他、流通の少ない天日干しワカメ（柔らかな食感で栄養価が高い）を使った調理加工品も開発中だ。

目標は販路拡大と経営の安定化

“たみこの〇〇”と名づけ、ブランド化した海藻類は、現在約55のスーパーや食品店に卸している。売り上げも伸び、パートスタッフは5名に増えた。ゼロからのスタートで事業を軌道に乗せた模範例と言ってもいいだろう。しかし「まだまだです。もっと販路を広げなくては」と、阿部さん。現在はプレハブの作業場を使っているが、「将来的には、工場とまでいかなくてもちゃんとした加工場を作りたい。そしてスタッフがフルタイムで働いて十分な収入が得られるよう、経営を安定化させることが目標です」。阿部さんの挑戦はまだまだ続く。



◆ファンドをどう活用したか

スタッフの人件費など。パソコンが得意な若手を雇用できたことでホームページやFacebookが開設できた。また広報や商品開発について貴重なアドバイスをもらった。

たみこの海パック

所在地：宮城県本吉郡南三陸町戸倉字長清水 9-3

電話：0226-46-9661

<http://www.tamipack.jp>



ダイビングサービスで 三陸の海の再生、 漁業復興を支援



高橋 正祥（たかはし まさよし）

仙台市生まれ。神奈川県葉山のダイビングショップに勤めていたが、震災後は潜水士として行方不明者の捜索やがれき撤去に尽力する。そして故郷の復興を期してUターン。2012年7月に石巻市渡波でダイビングショップ「High bridge（ハイブリッジ）」を開業し、2015年、女川シーパルピア内に店舗移転。マリレジャーによる地域振興を目指しつつ、「一般社団法人 石巻海さくら」代表として海のボランティア活動が続けている。

今なお続けられる遺品捜索、がれきの撤去

父と祖父の実家が石巻。子どもの頃から三陸の海に慣れ親しんだ高橋さんは、「東北の海と訪れるダイバーを結ぶ架け橋になりたい」という思いを込めてダイビングショップ「High bridge」をオープンした。同時に「一般社団法人 石巻海さくら」を設立し、遺品捜索・海と浜の清掃などのボランティア活動に尽力している。「先月も車2台、お遺骨を10体ほど見つけました。探してほしいというご遺族の声は今もありますし、事実見つかった。また僕らが清掃した場所はきれいになったけれど、がれきや重油で汚れた場所はあちこちに残っている。そういう意味で震災から5年以上経っても状況はあまり変わっていません」。



地元で活動する プロダイバーの育成が課題

宮城県は、首都圏や西日本にくらべてプロダイバーの数が圧倒的に少ない。震災後、石巻に駆けつけたダイバーもほとんどが県外からのボランティアだった。遺品捜索や海の清掃活動が続けるためにも、また今後増えるだろうレジャーダイバーを安全に誘導するためにも、プロダイバーの育成は喫緊の課題。そこで「High bridge」はライセンス取得に向けた様々な育成プログラムを提供している。「適性もあるし、人の命を守る仕事だから、一人前になるには最低2年かかる」とハードルは高いが、徐々に人が育ってきている。



三陸をメジャーなダイビングスポットに

そして高橋さんのもう一つの目標は、三陸の海の魅力を全国に発信し、女川や牡鹿半島沿岸をメジャーなダイビングスポットにすることだ。

三陸沿岸は親潮と黒潮がぶつかり、北の海で育った魚も南のサンゴ礁で育った熱帯魚も見られる「世界的にも珍しい海」。棲む場所によって色が変わるダンゴウオ、多種類のカジカ・ギンボ・ウミウシ・熱帯魚類等々、高橋さん自身、震災後の海に潜ってその豊かさに驚いたという（これらを紹介する『三陸の生きもの図鑑』も自主制作した）。震災前後で魚が集まるスポットが変わったため当初は探すのに苦労したが、地元の漁師さんの協力を得て、すでに2カ所のダイビングスポットを開拓した。



子どもたちに安全に遊ぶ技術を伝える

一方、「石巻海さくら」では、子ども対象のシュノーケリング教室や着衣遊泳の講習、海遊びのサポートも行っている。震災後、海を怖がるようになってしまった子どももいるが、こういった活動を通して「海で遊ぶという日常」を取り戻せたケースも少なくない。例えば栗原市のある小学校では震災後、学校行事としての海遊びを中止していたが、高橋さんのサポートで2015年夏、石巻市の小学校と合同で海遊び遠足を実施。子どもたちにも親たちにも大好評を博した。「子どもに安全に遊ぶ技術を伝えることも僕たちの役割」と、高橋さん。故郷の美しい海を守り、その素晴らしさを多くの人に知ってもらうため、今後も活動を続けていく。

◆ファンドをどう活用したか

ダイビングの器材と人件費に活用。ダイビング器材は一つひとつの値が張るが、ファンドのおかげでスムーズに開業できた。またセミナーで学んだ経理などの実践的な知識も役立った。

宮城ダイビングサービス High bridge

所在地：宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原 1-42
シーパルピア女川 D 棟-16
電話：0225-90-4416
<http://www.high-bridge1.com>



若者を呼び込み、 地域に賑わいを取り戻す ヴィンテージ&古着雑貨の店



三浦 有貴（みうら ゆうき）

石巻生まれ。美容室「PERS' LOV」を経営。震災後、避難所や仮設住宅でヘアカットのボランティアを行う（現在は介護施設でのヘアカットサービスを継続）。その活動を通して知り合った三重県古着卸事業者の協力を得て2012年5月、石巻市立町・富貴丁通りに古着屋「THE DAY」をオープン。若者を中心に市内外から客が訪れ、まちに賑わいを生むスポットとなっている。

若者で賑わった商店街を再び

三浦さんが10代の頃の立町・富貴丁通りは、ファッション・古着屋をはじめ若者にとって魅力的なモノや人が集まる特別なエリアだった。震災後、立町一帯は閉店・移転する店が多かったが、「仲間と遊び、先輩からたくさんのことを教わった商店街を再び盛り上げたい」と、以前からやりたかった古着屋の起業を決意する。学生時代に古着屋でバイトした経験があり、仕入れの仕方や掛け率など経営の基礎知識もあった。そしてたまたまボランティアで知り合った、三重県で古着卸を営む人が協力を申し出てくれたことが決め手となり「THE DAY」を開業した。



ヴィンテージから2千円のTシャツまで

同店ではアメリカの古着を中心に、ヴィンテージデニム、良質のユーズドデニム・シャツ・雑貨類などを厳選して扱っている。価格帯は30万円～40万円のヴィンテージものから千円台のTシャツまで幅広く、お客さんから預かった委託販売の古着も1棚分ある。DIYで改装した店内はカジュアルで居心地がよく、古着好きなら何時間でも“宝探し”を楽しみたくなる雰囲気。石巻圏の若者の他、ここ1年ほどの間に県内各地から訪れるリピーターも増えた。



商店街の仲間たちと連携し イベントも開催



開業時には商品の仕入れだけで 200 万円ほどかかり、自己資金でまかなった。「マイナスからスタートして、今も店を続けているってことは順調なのかもしれませんね。でも古着で儲けようとか事業を拡大しようとは思っていません。目標は店を継続すること」と、三浦さん。商店街の仲間と連携し、まちの賑わいに役立てたら十分という考えだ。まちづくりに関しては「クリーンすぎでは面白くない。雑多なものが混じってこそ人を惹きつける」というのが持論。若者目線に立ったまちの魅力づくりも重視し、商店主たちで様々なイベントも開催している。

生まれ育った町で腰をすえて

現在、介護施設でヘアカットサービスを提供する“介護美容”の事業化も目指していると言う。実現すれば施設入居者のニーズに応えられ、資格を眠らせているママさん美容師の雇用にも繋がる。古着屋を開いたのも美容師として活動するのも、一番の根っこにあるのは「生まれ育った石巻で、地域の人とつながりながら、ちゃんと食べていかなくちやいけない」というシンプルな思い。「外から来た人はばーんと大きな事業をやって、仮にうまくいかなくても帰っていける場所がある。僕らはそうじゃない」。ここに腰をすえ、起業のリスクを覚悟で、“まちの再生はそう簡単なものじゃない”という現実と向き合いつつ着実に前進している。



◆ファンドをどう活用したか

「THE DAY」オープン時の設備や什器、例えば洋服をかける棚・レジ・パソコンなどに充てた。起業支援セミナーで学んだ経理・会計の知識も役に立った。

THE DAY

所在地：宮城県石巻市立町 2-7-25

電話：0225-25-7130

Facebook: THE DAY

営業時間：11:00 ～ 20:00



カフェ運営を通じ、 石巻の高校生に 社会を体験する機会を提供



神澤 祐輔 (かんざわ ゆうすけ)

兵庫県生まれ。大学卒業後、関西の会社で店舗の内装デザインに携わる。「空間をデザインするだけでなくコミュニティを生み出す仕事をしたい」との思いから、2013年11月以降「いしのまきカフェ」「(かぎかつこ)」スタッフとして活動を開始した。同カフェは高校生が主体的に活動するキャリア教育の実践の場であり、学校やアルバイトでは得られない学びを提供している。

店づくりの段階から高校生が関わる

2012年11月、石巻市役所1階にオープンした「いしのまきカフェ」は、地元の様々な高校の生徒が運営する「高校生カフェ」として大きな話題を呼んだ。内装・メニュー開発・情報発信など店づくりの最初の段階から高校生が参画し、土日には初々しいユニフォーム姿でカレーや飲み物を調理・サービスする。このプロジェクトの生みの親は関西を拠点とする3つのNPO団体で、神澤さんも大阪のNPO団体のスタッフとして来石。石巻の高校生が地域の多様な大人と関わり、職業や社会について実践的に学べるようサポートしてきた。



キャリア教育の場を存続させるために

スタート時の高校生スタッフは34名だったが、卒業とともに入れ替わり、活動人数が少ない年もある。また土日のみのカフェ営業では活動の存続が難しい。そこでファンドを活用して「地域全体で高校生の活動をサポートする」仕組みづくりに取り組み、平日は地域の大人がカフェを運営するようにした。「社会体験プログラムとしてカフェを運営する以上、大人が手本となることも大切。また地元の雇用創出にもつながる」と、神澤さん。その後、日本茶インストラクターもスタッフに加わり、石巻の桃生茶や全国選りすぐりのお茶が味わえる店としても人気に。来店をきっかけに高校生の活動に興味を持ち、応援してくれる人も増えた。



地元の食材を使った商品を開発



高校生スタッフの活動はカフェ運営にとどまらない。水産加工品のパッケージデザインを手がけたのを皮切りに、サンマなど地元の魚介を使ったカレーをレシピ開発。さらに地元の水産加工会社と大手食品会社の協力を得て、レトルトカレーの商品化にも成功した。「今年も1年がかりで新商品を開発するプログラムを行っていて、2017年3月頃にはお披露目できる予定です」。この他、地域で働く大人にインタビューを行い、図鑑カードにまとめる「仕事みち図鑑」プロジェクトも実施。こういった多様なキャリア教育を高校生に提供し続けるため、2016年4月に「かぎっこ PROJECT」としてNPO法人化した。

キャリア教育としての精度を高める

2016年度の高校生スタッフは約10名。みんなで話し合い、店内の“高校生カフェ”は月1回ペースにとどめることにした。その代わり、地域のイベントにたびたび出店している。生産者や店主などいろいろな人と親しむ中で「地元の良さに気づいた」「石巻をもっとPRしたい」という若者が増えたとか。また巣立った高校生が大学生スタッフとして活動に関わるという好循環も生まれている。今後の目標は「キャリア教育としての精度を高め、今以上に地域を巻き込んだ活動にすること」。学校の総合学習のカリキュラムに組み込まれるよう働きかけも行い、石巻の発展につながる仕組みづくりを目指している。



◆ファンドをどう活用したか

平日のカフェ営業を始める際、スタッフの育成研修、調理器具やユニフォームなどの購入費用に活用。起業支援講座で学んだマーケティングに関する知識も実践の場で役立った。

NPO 法人 かぎっこ PROJECT

所在地：宮城県石巻市穀町 14-1 石巻市役所 1F
いしのまきカフェ「」
電話：0225-23-9371
<http://kagikakko.jp/>



南三陸町波伝谷の自宅跡地で レストランをオープン



成澤 英子 (なりさわ えいこ)

成澤さんは震災で自宅を失うなど大きな被害を受けたが、助成を活用して戸倉ドライブイン跡地で飲食店を開業。地元海産物を使った手作り料理が好評を博した。しかし町の復興計画により立ち退きを余儀なくされたため、2015年8月、娘さんとの二人三脚でカフェレストラン「ちょこっと」をリニューアルオープン。地域内外の人の集いの場となっている。

特産品の販路拡大、交流人口の増加に寄与

震災後、成澤さんが飲食店を開こうと思ったきっかけは「風評被害でホタテが売れない」という漁師の声を聞いたこと。「カキ小屋」ならぬ「ホタテ小屋」をつくって地元特産品を売ればいい」という発想で、2012年秋にレストラン「ほったて小屋」を開業。同店は成澤さんの料理の腕とおらかな人柄も功を奏して繁盛し、遠方から足を運ぶファンもつくなど交流人口の増加にも寄与。しかし2年弱で立ち退きを命じられ、創業時の借金が残ってしまったという。そのような苦境をバネに、復興半ばの波伝谷（娘さんの自宅跡地）で再開したのがカフェレストラン「ちょこっと」だ。



カフェメニュー、手作り弁当も提供

資材や大工さんも不足する中、復興ボランティアとして活動していた義理の息子さんの協力で板倉造りの瀟洒な建物を実現させ、ランチ（800円～）、夕食（要予約・値段と内容は応相談）、カフェタイムにはケーキ類も提供。さらに公営住宅に転居した高齢者などのニーズに対応し、栄養バランスのいいお弁当も手がけている。地区内に店舗が少ない中、同店は地元の人が気軽に集える希少なスペース。また高齢化にともない、今後はお弁当のニーズのさらなる増加も予想される。「大変だけれど、お客さんが「美味しかった、また来るね」と言ってくれるのが励みになる。私の体が動くかぎりは続けたい」と、成澤さんは笑顔で話す。



◆ファンドをどう活用したか

厨房機器と人件費などの創業資金に充てた。また飲食店を開く際に役所に提出しなくてはならない書類、帳簿の付け方などについても専門家からアドバイスを受け、とても助かった。

ちょこっと

所在地: 宮城県本吉郡南三陸町底上 53-4
電話: 0226-28-9702
Facebook: ちょこっと
営業時間: 11:30 ~ 18:00 水曜定休



ふるさと愛が復活させた 農漁家レストラン「慶明丸」



三浦 さき子 (みうら さきこ)

南三陸町戸倉地区の波伝谷出身。志津川好きが高じて、平成 11 年より志津川町戸倉で農漁家レストラン「慶明丸」を経営していたが、3.11 ですべてを失う。ところが「慶」の字が残る看板用浮き球が遠くアラスカで見つかり、手元に戻って来たのを機に店を再開。昭和 35 年のチリ津波も経験。被災体験の語り部としても活動している。

集まり語りあう場所があれば前へ進める

波伝谷は約 80 世帯 260 人が暮らす半農半漁ののどかな集落だったが、津波で壊滅状態に。住民はばらばらに避難していった。しかし「みんなが集まって話し合える場があればまちづくりが進む」と信念を持つ三浦さんは、看板の浮き球がアラスカから戻って来たことに勇気をもらい、2013 年 4 月に「慶明丸」を再建。元々、三浦さんの店は地場産の海・山の幸をふんだんに使った料理が評判だった。新生「慶明丸」も同様で、とれたての新鮮な食材にこだわることから予約制をとっている。地元の人やボランティアとしてかかわった人など震災前からのリピーターも多く、料理を味わいながら客同士がまちの未来について語り合うこともしばしばだ。



語り部の活動も続け、震災の記憶を伝えたい

開店当時は観光客も多かったが、今はだいぶ落ち着いてきている。経営的に楽とは言えないが、2 度の太平洋津波を経験した三浦さんはへこたれない。「一度は被災地に来てもらいたい、現場を見てほしい」と話す。語り部活動を続けているのも、避難訓練の大切さや“あの日あの時何が起きたか”を多くの人に伝えたいからだ。店はこれからも昼夜予約制で営業していく予定。メニューはおまかせコースで、ランチは 1500 円～、夜は約 3000 円～（応相談）。「地元の人にも気軽に来られる店であり続けたい」との思いからカラオケ機器も設置。「ここだと大きな音で歌っても誰にも文句を言われない。思う存分歌えます」と三浦さんはほがらかに笑う。



◆ファンドをどう活用したか

「慶明丸」を再建する際に支援を受け、厨房の設備の一部に充てた。

農漁家レストラン 慶明丸

所在地：宮城県本吉郡三陸町
戸倉字波伝谷 57
電話：0226-46-9374



居場所づくり・学習支援を軸に 子どもたちを多角的にサポート



門馬 優 (もんま ゆう)

石巻市出身。早稲田大学の卒業直前に震災が発生したのを受け、2011年5月に「TEDIC」を立ち上げ、毎週末夜行バスで石巻に通い子どもの学習支援に注力する。大学院修了後、故郷に戻り、団体をNPO法人化。子どもをめぐる社会的課題を見据え、子どもの居場所づくり・学習支援、さらにフリースクールや子ども食堂の運営など多様なサポート活動を展開している。

学習支援を切り口に社会問題に取り組む

震災後、避難所や仮設住宅で学習支援を行う中で、門馬さんは「被災の有無にかかわらず」学校になじめない子や家に居場所がない子、さらに虐待・ネグレクトなど危機に瀕した子どもも少なくないと実感する。「背景の一つは子どもの貧困という大きな社会問題」。石巻にリターン後、専門性を生かした課題解決を目指し、まず放課後から夜にかけての「子どもの居場所づくり」に取り組んだ。スタッフと学生ボランティアがチームを組み、市内各地の公民館と一緒に遊び・過ごし、学習サポートも行う。2014年からは学校と連携し、放課後の学校での子どもの居場所づくりに力を入れている。



すべての子どもが見守られる地域へ

そして2014年10月からは不登校の子どもの日中の居場所「ほっとスペース石巻」を関西の団体より引き継ぎ、フリースクールとして運営。2015年11月には地域の子どもが誰でも利用できる「子ども食堂」を貞山地区に開設。さらに2016年度から石巻市の委託で子どもの個別支援を行う「トワイライトスペース事業」もスタートするなど活動の幅が広がっている。“目の前にいる一人ひとりの子どもを支えるためできる限りのことを”という姿勢は当初から変わらない。「石巻のどこに生まれても自分らしく幸福に生きられるよう、子どもたちを皆で見守り育てる地域づくり」を目指している。

◆ファンドをどう活用したか

人件費・備品購入費の他、関西などへの視察研修の旅費交通費に充てた。視察研修では子どもたちへのアプローチ方法、日本の各種制度や運用実例などを学習でき、大変参考になった。

特定非営利活動法人 TEDIC

所在地：宮城県石巻市銚銭場 3-7
牧場ビル 3F
電話：0225-25-5286
<http://www.tedic.jp/>



世界で活躍する若者を！ IT 技術者を育成する 拠点づくり



古山 隆幸 (ふるやま たかゆき)

石巻市出身。大学在学中に東京でWEB制作会社を設立。震災後リターンし、2012年にソフトウェア開発とIT技術者の育成拠点「イトナブ石巻」を立ち上げる。2013年12月に社団法人化。「IT技術で世界をひっくり返すような若者を育てたい」と、小学生以上を対象に「東北TECH（テック）道場」「石巻ハッカソン」など学びと発表の機会を提供している。

出てこい、世界に打って出る若者たち。

被災した故郷に戻った時、喪失感以上に「町を変えるチャンス」と思った。今はどこにいてもIT技術で新しいものが創出できる時代だ。「未来を担う若者にソフトウェア開発やWEBデザインを学べる機会を提供し、また自分も挑戦し続け、その背中を若手に見せられるようでありたい」と、市中心部に「イトナブ石巻」を開設。コワーキングスペースを小学生以上の学びたい若者に開放し、遊び感覚で技術を磨けるようサポートする他、アプリ開発について集中的に学べる「東北TECH道場」や各種ワークショップ、技術・アイデアを競うイベント「石巻ハッカソン」などを定期的に開催している。



育成した人材が活躍できる場づくり

イトナブという名には、ITを学ぶ・イノベーション・営むなど多様なメッセージが込められている。「一つのアイデアから世界を変えるビジネスが生まれる。フェイスブックのようなビジネスが石巻から生まれることも夢ではない」と、古山さん。技術以上に「本気でやってみよう」という意欲と技術の生かし方を学ぶことが大切だと言い、IT関連の多様な講師が若者と直に話す機会をつくってもいる。また育成した人材が活躍できるよう2015年に「株式会社イトナブ」を設立。全国の大企業と組み、アプリ開発やWEB制作などを手がける。社団法人は教育に特化した事業を展開し、震災10年後の2021年までに石巻から1000人のIT技術者を輩出するのが目標だ。

◆ファンドをどう活用したか

一般社団法人を立ち上げる際の準備資金として活用。スタッフ2名の人件費・家賃・パソコンなどの機材費に充てた。

一般社団法人 イトナブ石巻

所在地：宮城県石巻市中央2-10-21
サトミビル1F
電話：0225-90-4282
<http://www.itnav.jp>



自力での移動が困難な人を 支える移動支援システムづくり



村島 弘子 (むらしま ひろこ)

北海道札幌市出身。震災後すぐ石巻でボランティア活動始める。所属していた障がい者支援団体とともに「移動支援ボランティア Rera (レラ)」の設立に関わり、その後地元住民と活動を引き継ぐ。2013年2月に法人化した。障がい者や高齢者に限定せず、公的福祉サービスではカバーできない様々な事情を持つ移動困難者を対象に、通院や買い物時の送迎を行っている。

のべ 12 万人以上の移動を支援

大量の車が流失し、多くの市民が移動困難者となった震災後の石巻。「Rera」は当初、移動に困っているすべての人を対象に完全無償、24時間対応で送迎サービスを提供した。そして「時間の経過とともに自分たちの役割は終わりに向かう」と予想していたが、実際には違った。石巻は元々、障がい者や高齢者を支える交通システムの空白地帯。震災後は「家族がばらばらになり、送迎してくれる人がいない」「足の悪い復興住宅に住まざるを得ず、車もない」という人も。「なんとかReraを存続してほしい」という声に応え、現在はガソリン代の実費分を利用者負担、6時半～17時を活動時間とし、1日約70人にサービスを提供。これまでにのべ12万人以上を支援した。



地域に広く認知される団体に

これまでの成果は「移動に困っている人が移動できたことに尽きる」と、村島さん。一方、課題は「活動を存続すること」。約10名のスタッフは全員が有償ボランティア。「困っている人を見送るわけにいかない」という思いで走り続けてきたが、熱意だけで長期的に活動を続けるのは難しい。福祉有償運送の実施も検討しているが、その場合、一部の障がい者・介護認定者しかサービスを利用できなくなるのが事務の悩みどころ。今後は「組織基盤を強化し、地域に必要な団体として広く認知してもらえるように、活動を継続していきたい」。助け合い精神にもとづく石巻圏の新しい交通システムの構築を目指している。

◆ファンドをどう活用したか

主に人件費に充てた。またNPO法人化に当たり、組織運営についてなど多くのことを教わり、多様な団体とつながることができたことにも感謝している。

特定非営利活動法人 移動支援 Rera

所在地：宮城県石巻市大街道東4-2-10
クレンビル1号館2F
電話：0225-98-5667
<http://www.npo-rera.org/>



大漁旗を石巻のお母さんたちとリメイク 石巻発のブランドを発信



田中 鉄太郎 (たなか てつたろう)

デンマーク・コペンハーゲン生まれ。京都を拠点にデザインの仕事をしていたが、震災後、ボランティアとして訪れた石巻で「大漁旗」と運命的に出会い、石巻発のブランド「FUNADE ～結日丸」を立ち上げる。被災した石巻のお母さんたちを雇用して多様なオリジナルグッズを製作販売。「大漁旗プレスレット」はYahoo! ショッピング復興デパート賞を獲得した。

地域の宝物「大漁旗」グッズをブランド化

震災1カ月後にボランティアとして来石。「服やものづくりの経験を活かし、被災した人が経済的・精神的に自立するための仕事をつくりたい」「地域に根づいた象徴的なものをブランド化できたら」と考えていた矢先、大漁旗と出会い「宝物だ」と直感する。漁師さんから譲り受けた大漁旗をきれいに洗濯し、間借りしていた場所をリフォームして作業スペースを確保。2012年3月11日にネット販売「結日丸」をスタートさせ、翌年には路面店「FUNADE studio」をオープンした。大切な大漁旗を余すことなく使おうと糸や端切れも活用し、衣服やバック類の他、多種多様な小物を生産販売している。



縁を大切に、人が寄り合い楽しめる場を

現在、スタッフはアルバイト2名+内職のお母さん8名。当初から「FUNADE ～結日丸」にかかわり、手仕事を生きがいに行っているお母さんも多い。「店の経営拡大は考えていない。ただ、お母さんたちとのご縁は大切にしたい」と、田中さん。店舗とネット販売のほか、東京アースガーデン、仙台メディアテーク、無印良品、はまぐり堂などに商品を置いている。今後はものづくりのかたわら「石巻に人を呼び込み、皆に楽しんでもらえることをしたい」と、店舗裏に「いろいろなことができる」フリースペースを作った。詳細は未定だが、石巻をより元気にする拠点となることは間違い無い。

◆ファンドをどう活用したか

ミシン、パソコンなど大きな備品の購入に充てた。少ない自己資金で起業できたのはファンドのおかげ。手仕事品の製作・販売事業が順調にスタートできた。

結日丸 FUNADE studio

所在地：宮城県石巻市中央1-4-3
電話：0225-98-8683
<http://funade311.com>
営業時間：10:00～18:00 不定休



“手作り”と“厳選素材”にこだわった、お弁当と夕食のデリバリー



小野 美紀 (おの みき)

東松島市で民宿と海苔養殖業を営んでいたが、自宅を含め全て津波で流失。震災後、食での起業を決意し、2013年1月、仙台市宮城野区で夕食とお弁当の宅配店「こゆゆ」をオープンした。同じ場所にシフォンケーキの製造販売「パルティール」も併設。徹底して食材と“手作り”にこだわった料理が評判を呼び、創業時の売り上げ目標を2年で達成するなど順調に事業展開している。

大手の宅食事業者と差別化を図って成功

震災前に民宿を営んでいた経験を生かし、民宿の仲間2名を誘って「こゆゆ」を創業。目指したのは「人との関係性を大事にした、家庭の第二の台所のような」地元密着型の店だ。大手の宅食事業者とは一線を画し、厳選した食材を使い、ソースもすべて手作り。冷凍品は使わず、「エビも殻をむくところから調理する」という。お弁当は1食千円からとやや高めに設定したが口コミで客が増え、その多くがリピーターに。弁当類は1日120～130食の定期的な注文があり（最もよく出るのは2千円前後の「おもてなし弁当」）、その他パーティや法事、映画のロケ弁等にも応じている。



飲食で起業したい女性を応援したい

実は「こゆゆ」を開業して間もなく、小野さんは手腕を買われて東京・目黒のイタリア料理店の経営も任された。立ち上げから関わり、その店を人気店にのし上げたが、「地元で築いた人とのつながりを大事にしたかった」から再び仙台に戻った。現在は「こゆゆ」および併設するシフォンケーキ工房「パルティール」の経営に専念している。最後に今後の目標を伺うと、「一つはパルティールをケーキ屋さんか喫茶部門として独立させたい。もう一つは私と同じように飲食で起業したい女性を応援したい。動ける範囲で、セミナーの講師として活動できたらと思っています」。



◆ファンドをどう活用したか

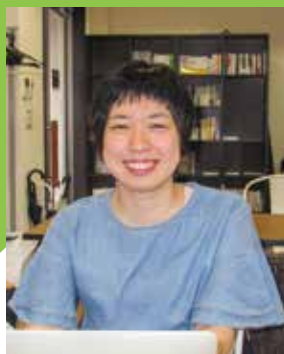
「こゆゆ」をオープンする際に支援していただき、冷蔵庫など厨房機器の購入に充てた。

こゆゆ

所在地：宮城県仙台市宮城野区
宮千代 3-9-11
電話：022-353-5040
<http://coyuyu.com>



石巻に移住者を 呼び込み、育てる シェアハウスづくり



渡邊 享子 (わたなべ きょうこ)

西日本にて密集市街地での住まいの研究を行う途中、震災が起こったのを機に石巻に移住。「一般社団法人 ISHINOMAKI2.0」の立ち上げに関わり、2013年に中心市街地の移住促進を図るプロジェクト「2.0不動産」を立ち上げる。2014年4月にシェアハウス事業に特化した「合同会社巻組」を設立し、シェアハウスづくりや管理、移住希望者への情報提供等を行っている。

入居者とともに作り上げるシェアハウス

震災後、ボランティアとして訪れた石巻に移住する人や起業を志す若者も増えたが、住まい探しに苦労する例が多かった。渡邊さんは「使われていない民家や商店の空きスペースをシェアハウスに改造し、移住者に提供する」という仕組みを考案。当初1年間は所属する団体の事業として、その後は「合同会社巻組」を立ち上げてシェアハウスづくりに注力する。2013年には市中心部の被災したお茶屋さんの2階を改装した「SHARED HOUSE 八十八夜」を、2015年には新築店舗の上階に「COMICHI 石巻」を開設。「大家さんからサブリースし、管理費を収益にする」という事業形態で、施工を工務店に丸投げするのではなく、入居者とともにDIYで作り上げるのが特長だ。



コミュニティづくりをサポートし、 移住促進を図る

二つ目の特長は、大家さんと入居者のコミュニケーションを大事にしていること。「八十八夜」の場合、シェアハウスは“高齢の大家さんを入居者が見守る”という機能も果たしている。また入居者同士がコラボしてフリーペーパーを発行するなど、シェアハウスを舞台に様々なプロジェクトが始まっている。「巻組」としてはこの他、移住を考えている人への情報提供、石巻で起業したい人への支援等の事業も実施。「不動産は人と人をつなげるツール。今後は過疎地域でも空き家を活用した事業を展開したい。うちがハブとなって魅力ある多様なコミュニティができたと思っています」(渡邊さん)。



◆ファンドをどう活用したか

「SHARED HOUSE 八十八夜」を開設する際の資金に充てた。また創業支援講座では小山龍介さんから事業プランへのアドバイスをいただき、非常に参考になった。

合同会社巻組

所在地：宮城県石巻市中央 2-3-14 2F
電話：0225-24-6919
<http://makigumi.com/>



蛤浜の魅力を未来につなげるプロジェクト



亀山 貴一（かめやま たかかず）

石巻蛤浜出身。宮城県水産高校教員を退職し、「café はまぐり堂」を開業。津波で壊滅的な被害を受けた蛤浜の再生を目指し、2013年3月に蛤浜プロジェクトを立ち上げる。広々としたカフェスペースや地域資源を活用し、様々なイベントを展開して地域活性化に貢献。ファンドを活用して隣接する古民家を改修し、2015年4月にセレクトショップをオープンした。

故郷の再生を目指し、カフェとショップを開業

牡鹿半島の小さな集落・蛤浜は甚大な津波被害を受け、2世帯5人にまで人口が減少した。亀山さんは生まれ育った地域の再生を目指し、教職を辞して蛤浜プロジェクトを立ち上げる。まず、ボランティアの助けを借りて築100年の自宅をカフェに改装。地元産の食材を使ったランチ、自然に恵まれた抜群のロケーション、古民家ならではの居心地の良さも手伝い、年間約1万5000人の人が訪れる人気店になった。さらに隣接する古民家を買取り、県内の作家のクラフトアートや雑貨を扱うセレクトショップ「高見」を開業。またフィールドを整備して自然学校も開催し、蛤浜に多くの人を呼び込んだ。



地域資源を活かした六次産業化を目指す

「高見」は当初、浜の生活が体験できる民宿にする予定だったが、「復興工事の関係で避難路の確保が難しかった。将来的には宿に戻し、私もここに住んで漁業も行いたい」と、亀山さん。2016年9月現在、蛤浜プロジェクトの一環としてカヌーやSUPなど牡鹿半島の魅力が満喫できる様々なネイチャーアクティビティを企画しているが、一方で「交流人口の増加が必ずしも住民の幸せにつながるわけではないことも実感している」と言う。今後の大きな課題は「地元の主産業である漁業の振興と六次産業化」。地場の海産物のPRや直販、漁業・宿泊・料理を組み合わせることで事業化するなど、地域の暮らしにより根差した活動を目指している。



◆ファンドをどう活用したか

カフェと隣接する築70年以上の古民家（「高見」）を“浜の暮らしが体験できる漁家民宿”にした際のリフォーム代に活用した。

一般社団法人はまのね café はまぐり堂

所在地：宮城県石巻市桃浦字蛤浜 18
電話：0225-90-2909
<http://hamagurihama.com/café/>
営業時間：10:30～17:00（冬季16:00迄）火・水曜定休



アロマセラピーの 癒し効果を 多くの人に届けたい



三浦 未恵子 (みうら みえこ)

石巻生まれ。18歳から仙台に住み結婚。出産を機に石巻に戻りアロマの勉強を始め、震災直後から高齢者施設や仮設でボランティア活動を行う。アロマセラピーが人の沈んだ心と固まった身体をほぐしていく様子を目の当たりにし、その素晴らしさを再確認。本格的に取り組むことを決め、2016年6月「あろまおいるせらびー 日だまり」をオープンさせる。

「からだが楽になった」——顧客の声が励みに

三浦さんのアロマセラピーは、安全な天然植物素材から抽出されたアロマ(精油)オイルを使うのが特長。五感を刺激し、血液やリンパの流れを良くすることで、自然治癒力を高めながら心身のバランスを整えようとするボディトリートメントだ。夜眠れない、胃腸の調子が悪いなど、その日の体調に合わせて調合した精油をオールハンドで体内にゆっくり染み込ませる。話しながら施術するので、少しずつ悩みや苦しみを吐き出してくれるようにもなり、手で触れられる安心感と相まってリラックス効果も大きいとか。「からだが楽になった」「病院で薬をもらって飲むより自己管理で健康になっていった方がいいから来るの」といった顧客の声が励みになっている。



指導者としても活動し、 アロマの認知度を高めたい

マッサージだけではなく、近年人気の「ハーブボール」(蒸したハーブ10種類が入ったボールを患部に当てるインド、タイ、スリランカの民間療法)といった新しい癒しの方法も熱心に勉強し、施術に取り入れている。今後は、アロマを看護師などに教えることが認められるトップインストラクターの資格も取得し、指導者へと仕事の幅を広げていくのが目標。そして、「まだまだアロマの認知度が低い石巻で、その良さを多くの方に知ってもらい、皆さんの健康づくりのお役に立ちたい」と、ふんわりした笑顔で抱負を語る。

◆ファンドをどう活用したか

アロマオイルなどの備品の購入に活用。また創業支援セミナーでホームページなどITを活用したPR方法を教わった。

あろまおいるせらびー 日だまり

所在地：宮城県石巻市住吉町 2-6-6

ユーハイツ 207

電話：070-6620-5343

営業時間：11:00～17:00 水曜定休



高齢者向け 宅食サービス事業で 障がいを持つ人の雇用を生む



小尾 勝吉 (おび かつよし)

神奈川県出身。石巻などで汚泥除去などのボランティア活動を行った際、一人暮らしの高齢者の生活に危機感を感じる。同時に、障がい者など社会的に弱い立場の人が働ける場をつくるのが復興の第一歩と肌で実感。この二つの問題を解決しようと、2013年3月に高齢者向け宅食サービス「愛さんさん宅食」を塩釜市で創業。翌2014年3月、石巻に2号店をオープンした。

高齢者の見守りを兼ねた宅食サービス

「愛さんさん宅食」は、栄養バランスを考えた通常のお弁当の他、腎臓病・糖尿病・嚥下困難などに対応する特別食を宅配している。スタート時は病院の食事などを手がける調理センターに作ってもらったが、今は自社工場で製造。高齢者の見守りも兼ねており、行政の補助が受けられる人は1食300円～400円の負担で宅食サービスが受けられる仕組みだ。配達範囲も徐々に増え、今は石巻・塩釜・多賀城・松島・七ヶ浜の4市1町の約300世帯。妻と2人で始めた宅食サービス事業は、年間売り上げ約1億円、約60人のスタッフを抱えるまでに成長した。その半数以上は障がいを持つ人で、適性に応じた仕事を受け持ち生き生きと働いている。



人材育成のための学校をつくる

小尾さんが会社を立ち上げた目的は「高齢者に食事と笑顔を届けること」、そして障がいを持つ人など社会的に弱い立場の人の自立をサポートすることだ。「障がいを持つ人の平均月収は7万円強。その倍は払える会社にするのが目標です。また宮城県は障がい者雇用率が全国最下位。これをなんとか改善したい」。宅食サービスの他、介護事業も展開しており、「障がいを持つ人を介護職に育成するスクール」の開設準備も進めている。誰もが生き生きと暮らせる社会の実現を目指し、小尾さんのチャレンジは続く。



◆ファンドをどう活用したか

石巻事業所を開設する際に支援を受け、厨房機器・食洗器・作業テーブルなどを購入できた。また地域の信頼できる方々に顔つなぎしてもらったことも助かった。

愛さんさん宅食株式会社

所在地：宮城県石巻市駅前北通り
1-5-6 (石巻事務所)
電話：0225-90-4213
<http://www.ai-sansan.com>



花と緑の力でまちの復興を目指す 「雄勝町ローズファクトリー ガーデン」



徳水 利枝（とくみず りえ）

石巻市雄勝町出身。1988年より町で学習塾を経営。2011年8月より530坪の実家跡地に津波で亡くなった人の霊を弔うために花を植える。この庭が多くの注目と賛同を得て、現在の観光庭園「雄勝町ローズファクトリーガーデン」となる。ボランティアのべ3,500人とともに育ててきた庭園は、人と人とが繋がる場所、雄勝を訪れる人の憩いの場所となっている。

セミナー、花の販売、防災教育など多角的に

バラをはじめ四季折々の花が楽しめる「雄勝ローズファクトリーガーデン」を創設した徳水さん。2014年3月に一般社団法人雄勝花物語を設立し、エディブルフラワー、ハーブ等の生産販売を事業化。さらに花づくりに関するセミナーやワークショップ、子ども向け防災教育の開催など、7名のスタッフとともに八面六臂の活躍をしている。人口が激減した雄勝に多くの定住者を望むのは難しい。それでも「なんとかしたい」と心を寄せ、雄勝を訪れる人の数は確実に増えているという。例えば当初から関わってくれている京都の龍谷大、東北学院大、千葉大などの学生ボランティアは今も定期的に訪れてくれる。またNHK「趣味の園芸」でガーデンのことを知った人も全国から。「交流人口を維持することの大切さ」を実感している。



進化を続けるローズファクトリーガーデン

2016年現在、精力的にガーデンの改良を進めている。特に力を入れているのがバリアフリー化で、すべての通路を車椅子で通れるようリフォーム中。次に80人収容の広い研修室を作る。防災・減災を学ぶスタディツアーに使ってもらえたらと考えている。今後の目標は「ガーデンを続けていくこと。あり続ければ、場所が自ずと意味を作っていくと思う」と、徳水さん。花やハーブの摘み取りやブーケ作りなど、人気の高いプログラムはこれからも継続する予定。その先に「親子でのびのび過ごせるキッズガーデン」を思い描いている。

◆ファンドをどう活用したか

法人化するための手続き費用、プレハブ建設費、プロジェクターの購入などに充てた。また法人化できたことで他からの支援が受けやすくなり、防災教育プログラムも継続できた。

一般社団法人 雄勝花物語

所在地：宮城県石巻市雄勝町

味噌作 24-3

電話番号 090-9037-4593

<http://ogatsu-flowerstory.com>



地ビールを醸造・提供する ブルーパブで 女川の活性化を目指す



木村 優佑 (きむら ゆうすけ)

女川町出身。東京でIT関連の仕事をしていたが、震災後にUターン。2014年5月に女川町きぼうのかね商店街にビールバー「ガル屋 beer」を開業し、2015年12月、シーパルピア女川に移転した。開業以前から目指していた「女川の地ビールの醸造販売」は2016年度中に実現する予定。地元商店街の人とともに町を盛り立て、活気ある女川を実現させたいと願っている。

〇醸造所つきの本格ビールバーを目指して

震災後、Uターンを決意した木村さんは女川で地ビール醸造所を併設したパブを開くことを目指し、都内のブルーパブ（小さな醸造所つきのお店）で修業。各地のブルワリーにも通い、ビール醸造について徹底的に研究した。そして2013年9月に帰郷。仮設商店街での営業を経て、2015年末、駅前のシーパルピア女川に「ガル屋 beer」をリオープンした。「知らない人同士も仲良くなれる和気あいあいとした雰囲気のお店」と、カウンターもテーブル席も基本的に立食スタイル。酒類の醸造には国の認可が必要で、そのために少々時間がかかったが、間もなく宮城県内でも数少ない本格ブルーパブが実現する。



地元の人たちと協力しながら女川の特徴を

現在、樽で出す生ビールは10種類。木村さんが手作りするオリジナルの酒肴も多く、ホヤ・タコ・カキなど旬の魚介を使った料理が人気だ。そして「通常のビールの他、いずれはプラスアルファで海産物を使った発泡酒も作りたい」と、独創的な構想は膨らむ。シーパルピア女川には木村さんと同様、復興への強い思いを胸にテナント入りした人も多い。「地元で昔から営業している飲食店の方とも協力し、お互いの良さを引き出し合えるようなイベントも開きたい」。活気ある女川をつくるため、日々奮戦している。

◆ファンドをどう活用したか

女川町きぼうのかね商店街での創業時に、冷蔵庫など機材の購入に充てた。鮮度が高く品質のいいビールが提供でき、大変助かった。

ガル屋 beer

所在地：宮城県牡鹿郡女川町女川浜
字大原 1-4 シーパルピア女川 C-13
電話：090-9534-9979
営業時間：17：00～23：00
(日曜15：00～21：00) 水曜定休
Facebook: ガル屋 beer



故郷の女川町にUターンし、 洋食レストランを開業



山田 隆大 (やまだ たかひろ)

女川町出身。調理師学校の最終日、しかも就職先の研修初日に震災が起きた。故郷に戻るか迷ったが、二十歳そこそこで戻っても何もできないと思い止まる。1年半後に帰って来たのは、飲食店で復興の力にならないかと声をかけてくれた人たちがいたからだ。町の人に愛される洋食屋さんを目指し、2014年に「りぼん」を開店。2015年4月9日、シーパルピア女川にリオープン。

もう一度、女川に洋食屋さんを

故郷の復興のために何ができるか？ 山田さんは悩んだ末「自分の得意なことで起業しよう」と決意し、女川にUターン。スタートは総合体育館野球場の仮設店舗だった。空いていた厨房設備つきコンテナで「りぼん」を開業。洋食店にしたのは「女川にあった人気の洋食屋さんが震災後、なくなってしまったから」。多くの人に相談にのってもらい、人との繋がりがあってこそ開業できたため、店名は「縁を結ぶ」イメージの「りぼん」にした。そして2015年4月、駅前に完成したシーパルピア女川に移転。理想は「女川の洋食屋といったらここ」と、名前が挙がる店にすることだ。



地場の食材を取り入れ、地域を活性化

「りぼん」の特長は驚くほどコストパフォーマンスが高いことだ。例えばハンバーグ・ご飯・スープ・サラダのセットで800円。この値段で味もボリュームも申し分ない。その他、ナポリタンやカルボナーラといった定番的なメニューに加え、ホヤやサンマの Pasta など女川色を打ち出したメニューも期間限定で出している。現在、ランチがメインだが、団体予約があれば夜も営業。今後は「交流人口を増やすこと」を目標に「子どもの頃から食べ慣れた女川の洋食屋さんの味を提供しつつ、地場の新鮮な食材を使ったオリジナルメニューも増やし、町の活性化につなげたい」と話す。

◆ファンドをどう活用したか

厨房機器、消耗品などを購入した。支援してもらったおかげで最初の店を出すことができ、経営や調理経験を積むことができた。

りぼん

所在地：宮城県牡鹿郡女川町女川浜
字大原 1-36 シーパルピア A-7
電話：0225-25-7490
営業時間：11:00～17:00 水曜定休



起業したい人を応援する、 気仙沼初のシェアオフィス



杉浦 恵一（すぎうら けいいち）

愛知県出身。ヒッチハイクの旅の途中、東日本大震災に遭遇し、被災した各地でボランティア活動を行う。その後、気仙沼に拠点を置き、2012年に一般社団法人Nr.12（ナンバートゥエルブ）を設立。起業したい若者や現地に根を張って活動する人を応援するため、2014年にシェアオフィス「co-ba KESENNUMA（コーバ・ケセンヌマ）」を開設した。現在、約10の人・団体が会員となっている。

単なる仕事場ではなく、人と人をつなぐ場を

震災4ヵ月後の気仙沼で、杉浦さんは多くの魅力的な人と出会った。家や仕事を失いながらも「一から出直せばいい」と復興に意欲を燃やし、将来の夢を語る人たち。すぐに意気投合した。そして「町の人や気仙沼で何かをやりたい人の拠点となる場が必要」と、仲間の協力を得てシェアオフィスを開設。目指したのは単なる仕事場ではなく、まちのみんながつながり一緒に楽しめる場所だ。現在のオフィスは被災したダーツバーを一から改修。カフェさながらのオープンな雰囲気を実感に、キッチンとカウンターも作った。入居料も月1万円からと低めに設定している。



多彩なイベントを開催し、 若者のチャレンジを応援

入居者は会社に勤めながら起業した人、カメラマン、気仙沼と首都圏を行き来する販売職など様々。ここで知り合った縁でコラボ企画が生まれることもある。また2ヵ月に1度ほど起業家向けセミナーも開くが、それ以上に力を入れているのが、地元の演奏家によるライブ、和装店と組んだ着物イベント、哲学カフェなど町の人を巻き込んだイベント。さらに「カフェの開業を目指す若者がここでモーニングセットを提供する」など、起業したい若者をあの手この手で応援している。「楽しいことをすれば自然に気仙沼に人が集まってくる」と、杉浦さん。起業しやすい環境づくりに今後も取り組む。



◆ファンドをどう活用したか

シェアオフィスを開設する際の水道工事費・家具・備品などに活用。内装施工は自分たちで行ったので、このファンドだけで賄えた。

co-ba KESENNUMA

所在地：宮城県気仙沼市南町2-2-25
電話：0226-25-8131
<http://ima210.com/co-bakesennuma/>



素材にこだわった 手作り洋菓子の 教室と販売



説田 幸子 (せつた さちこ)

「町の復興のために何かをしたい」との思いから地域活性化イベント「石巻に恋しちゃった（「石恋」）」に洋菓子づくりの達人として参加。石巻立町復興商店街にて洋菓子教室と洋菓子販売の「Chez Setta（シェ・セッタ）」をオープンした。現在、「日和キッチン」を拠点に市内の公共施設やイベントなどで洋菓子教室を開催。手作り菓子の卸売りも行っている。

洋菓子づくりを通して町の復興に寄与

元々、家庭の主婦として家族や友人のために洋菓子を作っていたが、その腕はプロ級。転機となったのは東日本大震災だ。町の復興に役立ちたいと、「石恋」の達人として洋菓子教室を開き、親子でお菓子を作る楽しさや手作り品ならではの美味しさを伝えた。さらに女性人材育成スクール「Eyes for Future by ランコム」に参加したことで自信を深め、2014年4月、石巻立町復興商店街に「Chez Setta（シェ・セッタ）」を開店。味の良さと教え方の丁寧さ、説田さんの穏やかな人柄があいまって大好評を博した。同商店街が2016年10月に廃止されていったんお休みしたが、現在は「日和キッチン」や市内の公共施設などで洋菓子教室を開催し、焼き菓子をカフェや小売店に卸している。



迷った末に出した出張教室というスタイル

説田さんが作る洋菓子は体に良い上質な素材を使うのが特長。「金華サバのケーキサレ」など独自にレシピ開発した商品もあり、「いつでも買いに行けるよう店舗を再開してほしい」というファンも多かった。が、現実には個人の力で創業するのはハードルが高い。説田さん自身、復興商店街の廃止が決まってから迷いに迷い、出した答えが出張教室というかたちの事業継続だった。Chez Settaのお菓子を置きたいという店舗も増えており、説田さんの活躍の場はさらに広がっている。

◆やっぺすとかかわり

「石恋」に参加したことで自信が付き、創業を決意。創業後「Eyes for Future by ランコム」に参加したことでその後の活動の励みとなった。また、コワーキング事業の創業支援を受けたことで経営の基礎について改めて学べた。

Chez Setta

所在地：宮城県石巻市立町2丁目 7-26

日和キッチン内

電話：090-5848-1332

Facebook：Chez Setta



障がいを持つ人の
雇用促進と自立をサポート

木村 恵美子 (きむら えみこ)

石巻生まれ。ハローワーク職員を経て、2015年7月、障がい者雇用の中間支援を行う「一般社団法人 地域障害者雇用促進協会 Nさぽーと・みやぎ」を設立。これまでの障がい者就労支援とは異なり、企業や団体など雇用する側への相談対応や情報提供を行うことで障がい者の就労・自立をサポートするという新しい試みをスタートした。

企業と障がいを持つ人のつなぎ役として

障がいを持つ人が経済的に自立するのは容易なことではない。一方、企業は労働者数の割合に応じた障がい者の雇用が義務づけられているが、受け入れに不安を持ったり、問題が起きた際の対応に苦慮したりする場合も少なくない。木村さんはハローワークに務めた経験から「障がいを持つ人を雇用する企業へのサポートやフォローアップが必要」と痛感し、同団体を設立。具体的には顧問契約を結んだ企業への相談対応や巡回訪問を行い「皆が気持ちよく働けるよう」きめ細かくアドバイス。また多様な専門機関と連携し、問題が起きた場合は専門家や木村さんが出向いて解決に当たる。



商品開発という新たな試み

2017年には「障害者就労移行支援事業所」（就労に向けてスキルを磨く訓練所）も開設準備中。利用者は20人以下と少なく、支援する職員の育成も図る。さらに、多くの企業に障がい者雇用を働きかけの中で「加工食品の開発をやってみませんか」と声をかけられた。「今後は障がい者さんと一緒に商品開発も手がけたい。市場で売れば、障がい者さんのやる気にもつながる」と、木村さん。企業人の集まりにも積極的に参加し、「誰もが誇りをもって生き生きと暮らせる社会」の実現に向け奮闘している。

◆やっぺすとのかわり

団体を立ち上げる際、コワーキングの起業個別相談やセミナーに参加し、定款の作り方や財務を一から学んだ。2015年からコワーキングの会員となり、随時相談に乗ってもらっている。

一般社団法人 地域障害者雇用促進協会
Nさぽーと・みやぎ

所在地：宮城県石巻市東中里 1-10-9
電話：090-2989-7813
<http://n-sapo-miyagi.jimdo.com>



女性の雇用を創出し、 石巻の食の魅力を発信する



鹿島 美織 (かしま みおり)

震災直後から石巻でボランティアとして活動し、NPO 法人「ぐるぐる応援団」を立ち上げる。被災した女性の仕事・生きがいづくりの必要性を痛感し、2012 年 4 月、市役所 1 階にレストラン「いしのみ★キッチン」をオープン。2015 年 11 月に株式会社化した。2016 年は地元の女性たちによる共同経営体制づくりに注力。将来的にはツーリズムと組み合わせた事業展開を目指している。

料理上手のお母さんたちが力を発揮

「ぐるぐる応援団」は当初、交通手段を持たない人への移動支援を主軸に活動していたが、鹿島さんは「行き先、目的地を失った人もいる」ことに気づく。「震災で家や仕事を失った女性が生き生きと働ける場を。そして家族や近所の友人と離ればなれに暮らさざるを得なくなった多くの人が、一緒にご飯を食べて元気になれる場所をつくりたい」——そんな思いから石巻市役所 1 階に「いしのみ★キッチン」を開業。地元の旬の食材を使い、料理自慢のお母さんたちが腕を奮うランチやお弁当は好評を博し、復興に寄与するコミュニティビジネスとして大きな注目を集めた。



株式会社化し、スタッフは共同経営者に

原価率の高い飲食業の運営は難しく、赤字が膨らんだ時期も。鹿島さんは本業(株) アネモア CEO で得た収入を充てるなどしてきたが、店の長期的な存続と経営の安定化を図り、2015 年 11 月に株式会社化した。現在、女性スタッフ 8 人が共同経営者としてマネジメントに参画している。なお、同レストランは 2017 年 4 月、石巻市井原津に移転する予定で現在準備中。将来的には震災の記憶を語り継ぐスタディツアーも企画し、店の利用者増につなげたい考えだ。「石巻は食材が驚くほど豊かで、人の心も温かい。その魅力を多くの人に知ってもらいたい」と話す鹿島さん自身、石巻の人と食の魅力に取りつかれた一人だ。未来を語るとき、冒険心に満ちた黒目勝ちの目が一層輝いている。

◆ファンドをどう活用したか

株式会社化した際の創業資金として活用。銀行の融資を受けるまでの初期の時期に支援してもらえたことで余裕ができ、週 1 回スタッフ会議を開いて運営方針について密に話し合えた。

いしのみ★キッチン ベターワンダーワールド株式会社

旧住所：石巻市穀町 14-1 石巻市役所 1F
新住所：宮城県石巻市伊原津 2-11-35
(2017 年 4 月移転予定)

※旧店舗は準備中につき訪ねては旧店舗の写真を紹介



創業支援セミナーの 学びを生かし、 ヘアサロンをオープン



阿部 拓哉 (あべ たくや)

石巻市生まれ。横浜で美容師として活躍していたが、震災後、家族の住む石巻にUターン。コワーキングの創業支援セミナーでマネジメントを学び、2014年5月、大崎市鹿島島にヘアサロン「G-cloud」をオープン。創業2年ほどで予約が取りにくいほどの繁盛店に成長させた。将来の夢は「トータルビューティーを手がけるサロンを持ち、まちの活性化につなげること」。

創業支援セミナーの学びを生かして創業

横浜のヘアサロンに勤務していた当時、震災が発生。家族が住む石巻にすぐに戻りたかったが辞めさせてもらえず、1年後にUターン。その後、石巻の大手サロンで働きながら、創業支援セミナーを受講し、経理・営業・広報など経営に必要な基礎知識を学んだ。「美容師の専門学校でもヘアサロンでも経営のノウハウについては教えてくれない。だから独立したくても諦めてしまう美容師が多いけれど、僕はラッキーでした」と、阿部さん。当初は石巻市内でテナント物件を探したが、見つからなかったため、大崎市の親戚が持つ空き店舗を借りて現店をオープンした。



魅力的なサロンをつくり、地域に人を呼び込みたい

経営は順調で、リピート客は約500～600人に上る。阿部さんを含め3人のスタッフでさばけるのはこれが限界ゆえに、「新規のお客様さんは紹介のある方に限っている」という繁盛ぶりだ。将来的には現在の倍の広さ——30～40坪ほどの空間で、ネイルやまつげエクステなどの個室ブースを併設したトータルビューティサロンを開くのが夢。そして魅力的なサロンをつくることで地域に人を呼び込み、活性化させることが夢だと言う。決して多弁ではないが、将来について語り出すとがぜん熱を帯びる阿部さん。「仙台のような大都市ではなく、石巻や大崎くらいの規模の町にそういう店ができれば面白い」と青写真を描いている。



◆やっぺすとのかわり

コワーキングの創業支援セミナーに参加し、店舗経営のノウハウについて一から教わった。特にリピーターを増やすことの大切さや、そのための方法についてアドバイスを受けたことはサロン経営にとっても役立った。

Hair salon G-cloud (ヘアサロン・ジークラウド)

所在地：宮城県大崎市鹿島島木間塚字
姥ヶ沢 94-1
電話：0229-25-5759



ネットを活用し、ローカルからグローバルへ

石巻の起業家さんたちは、実直で勉強熱心な方が多い印象があります。良くも悪くも基本に忠実に真面目な性格な方が比較的多かった気がします。一方で弱みとしては、身近にロールモデルが少ないせいもあってか、明確な成功のイメージを見出している方が少ないイメージがあります。

経営とは学問でもゲームでもなく、もっと泥臭いものだと思います。自分のスタイルを信じて前に進めば道は開けるとお思いますので、共に頑張りましょう。

宮城県のみならずではありますが、地方の産業シーンにおいてインターネットをもっともっと活用して欲しいと思っています。インターネットは時間と距離を解決する技術です。すなわち、それは商圏をローカルからグローバルに変えることです。地方都市にこそ生かしどころは多く、インターネットの実質的利活用を強く望みます。



高畑 哲平

株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ代表取締役副社長

石巻への想いを力に、新しい価値の創造を

震災を機に起業されたみなさんは地域のために何かをしようと思われる方が多い。特に高齢者や女性向けの笑顔であったり、つながりであったりといったサービス分野の起業が多いように思える。そうした、愛情を持っている方と接していると、こちらも温かい気持ちになり、ありがたい気持ちになる。

経営の定石を学びながら、心を込めて事業を進めていただきたい。競争として経営を見たときに、定石を理解していないと不利になってしまう。まずは、同じスタート位置に立つために、経営の定石を上手く使ってほしい。そのうえで、差をつけるのは心の部分だと思う。石巻を想う気持ちが強いのであれば、もっと前面に出していき、特色あるサービスをつくる。経営は、競争でもあるが創造でもある。今まで誰もがやらなかったことを実現することで、新しい価値を生み出すことができる。

どうしても「人がいない」「金が無い」「特色が無い」という、都会と比べて無いものに目がいく傾向が強いが、徹底的に自信を持って今あるものを伸ばしていく。軸をぶらすことなく5年・10年と積み上げ続けることで事業も成長するし、地域も変わると信じています。



高原 康次

グロービス経営大学院 教員。農業生産法人 GRA マネジメント・アドバイザー、KIBOW 社会投資 事業開発担当



石巻の経済活動の復興を 草の根で支える 「やっぺす」の活動

石巻専修大学経営学部教授
山崎 泰央

石巻復興支援ネットワーク（通称：やっぺす）は女性が主体となって立ち上げた団体である。それだけに、いままで支援してきた創業者には女性が多い。

震災後まもなく創業をした女性たちは、収入確保が主な目的だった。仕事を失って肩を落としている男性たちのかたわらで、女性たちは生きる手段として「手しごと」から収入を生み出した。

「生」を生み出す女性が、底力を発揮し先に立ち上がったといえる。

しかし、この現象も、3年目あたりから変わってきた。

自分の能力を自覚し、事業化しようという女性たちが主役になった。フラワーアレンジメント、アロマ、エステ、フラダンス、ヨガ、お菓子づくり、などなど…。これまで磨いてきた特技を、社会へ還元するような創業が増えてきた。かつての、収入確保のための自己雇用といった形態から、能力発揮のための自己実現へと変化したのだった。

そうした、女性たちに自信を与えたのが、やっぺす主催の「Eyes For Future by ランコム」であり、「石恋」だ。彼女たちはEyes For Futureで仲間と出会い、自立へのモチベーションを高め、石恋やイベントで収入化への自信を深めた。やっぺすは多くの女性たちに、自立への希望を与え、その機会を創造してきたのである。

一方で、やっぺすは震災後からこれまで、男女問わず若者の創業支援にも携わってきた。2014年からは石巻圏初のコワーキングスペースを駅前に設置し、行政と手を組みながら、専門家による相談業務も行っている。相談には年齢・性別を問わず、創業予備軍をはじめNPOやスモールビジネスの経営者がやってくる。このような視点から見ると、やっぺすは、石巻の経済活動の復興を、草の根で支えてきたともいえる。

これからも老若男女問わず、地域の課題解決に携わる人たちを支えるとともに、女性が輝く石巻の社会創造に向けて、継続的な取り組みを期待している。

当団体が 2012 年以降に実施した創業支援概要

2012 年

内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業

支援対象 :
ファンド事業 被災地で起業することを希望する社会起業家 20 名
人材育成事業 被災地で活動する社会的企業などで働くことを希望する女性、若者 50 名
事業費 : 33,502,000 円
新規起業支援件数 : 20 件

2013 年

石巻復興起業家ゼミ運営事業

支援対象 : ビジネスを通じて人やまちを元気にする企業、個人事業、NPO を
営む起業家、リーダーとそのスタッフ 30 名程度
事業費 : 2,556,000 円

宮城県震災復興起業支援業務

支援対象 : 新規起業希望者及び既存事業者（新規事業担当）50 名
平成 24 年度内閣府事業起業家 132 名
事業費 : 13,306,000 円
新規起業支援件数 : 50 件

2014 年

宮城県地域起業・新事業活動拠点運営業務

支援対象 : 県内で起業を予定している社会人、大学生等、創業から 3 年以内
の事業者及び第二創業に向けた活動を行う者 100 名程度
事業費 : 9,773,676 円
新規起業支援件数 : 7 件

2015 年

宮城県地域起業・新事業活動拠点運営業務

支援対象 : 県内で起業を予定している社会人、大学生等、創業から 3 年以内
の事業者及び第二創業に向けた活動を行う者 100 名程度
事業費 : 8,959,896 円
新規起業支援件数 : 9 件

2016 年

宮城県地域起業・新事業活動拠点運営業務

支援対象 : 県内で起業を予定している社会人、大学生等、創業から 3 年以内
の事業者及び第二創業に向けた活動を行う者 100 名程度
事業費 : 8,896,932 円
新規起業支援件数 : 3 件

Coworking!@Ishinomaki

2014 年度～ 2016 年度 までの事業定量成果

- ・ 経営相談対応件数述べ 459 件
- ・ 創業経営のための基本セミナー
開催 9 回
- ・ 創業経営のための基本セミナー
参加者数述べ 148 名
- ・ 起業家交流サロンの開催 16 回
- ・ 交流サロン参加者述べ 208 名
- ・ オリジナルセミナー開催 2 回
- ・ オリジナルセミナー参加者 18 名
- ・ 特創証明書発行可能支援者数述
べ 96 名 (うち実発行件数 38 件)
- ・ 新規創業支援件数述べ 17 件



やっぺす起業家支援事業報告書

～石巻復興支援ネットワーク創業支援事業 2012 年から現在までのあゆみ～

発 行 日 2017 年 3 月 31 日

制作・発行 特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

宮城県石巻市元倉一丁目 18-20

Tel: 0225-23-8588

Mail: info@yappesu.jp

編 集 協 力 中島るみ子・日置由起子

印刷・製本 萩の郷福祉工場



やっぺす起業家支援事業報告書

～石巻復興支援ネットワーク創業支援事業 2012 年から現在までのあゆみ～

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

団体 WEB サイト <http://yappesu.jp>

住 所 宮城県石巻市元倉一丁目 18-20

電 話 0 2 2 5 - 2 3 - 8 5 8 8